

山形県 農業調査報告書

報告書記入者名 (藤島 貴光)

調査名	山形県のブランド米の取組み方と栽培方法とわさびの栽培		
実施年月日	平成21年6月 28日 (日曜日)	13時00分 ~	17時45分
	~ 平成21年6月29日 (月曜日)	9時00分 ~	14時00分
調査員氏名	藤島 貴光		
調査対象先の概要 (資料等があれば添付のこと)			
・名称:			
・住所: 山形県東置賜郡高畠町佐沢 2558 他			
・面談者または調査対象 (ターゲット)			
「米農家」 遠藤五一氏 青木功一氏 黒澤 信彦氏			
「農業戦略専門家」 五十嵐 善徳氏 「わさび栽培」 佐藤 佳夫氏			

調査事項と調査の経過概要

①遠藤五一さん 田んぼ視察とブランド米について (6月28日 13:00~14:00)

山形県の現在の農業について調査してまいりました。まず米農家遠藤さんの田んぼを見学させていただき、そこで栽培方法を教えていただきました。有機特別栽培米として、全国コンクールで金賞を4年連続受賞し、山形の米を全国にアピールした。

「コシヒカリ栽培例」

播種 4月12日 定植 5月14日 出穂 8月15日

種子消毒 温湯消毒を各自で行っている。(種子消毒薬未使用)

その他 除草剤を1回使用 7割減の取り組み

肥料 (有機製品を中心に) チッソで4~5K 追肥は行わない

10a当り 完熟牛糞1t ケイ酸カリを重視

グアノ60Kg ※ミネラル成分が重要 ケイカルはだめ工業廃棄物

水管理 遠藤氏宅では中干しを行わず深水管理を行い分けつ時では葉の角度が15°になるよう管理を行っている。(葉が寝ているようではダメ)

収穫 葉色が黄金色になるまで待つ、低温を与える事により糖度が増す。

調整、玄米食が増えているので1カルトンで3粒、モミが混入すればブランド米として出荷させない。

目標 収穫で10a/8俵以下 低タンパク米 6.0%以下 白米6.3%

全国入賞では5%台でないと入賞できない。

水分 玄米水分値 14.5~15.0% 過乾燥は食味を落とす。

販売 2~5Kg袋出荷で、必ず個人名を入れ自己責任管理とする。

(クレームは個人対応となる。)

上和田有機米 遠藤五一さんの米 白米5Kg/4,300円

遠藤氏は有機・JAS・特別栽培米に取り組み付加価値を付けた米を全国に販売している。一人で販売するのではなく集落営農を中心として現在、60名栽培面積70haで60kg/5000俵を販売している。取り組みの特徴としては栽培方法で特別栽培米7割減を中心に有機・JASにも取り組み、こだわりをもった米を生産している。

②青木功樹氏 田んぼ視察 (14:30~15:00)

続いて南陽市に移動をして、米農家の青木功樹氏の田んぼを調査させていただいた。高山村でブランド化しようとしている品種のミルクープリンセスを栽培している。栽培しやすい品種であるが、山形の仕分品種になっていないので、その他雑穀米に分別されてしまう。場所を移動して、丹泉ホテルの会議室を借用し、専門家の五十嵐先生に現在の山形農業の戦略をご講演いただいた。

③丹泉ホテル会議室 (15:30~17:45)

農業戦略家 五十嵐善徳先生による山形県農業戦略レクチャー

米農家 遠藤五一氏 青木功樹氏 黒澤信彦氏によるレクチャー

五十嵐先生より山形県の農業戦略を講義していただく。時代は変化している→お客様に嘉一を提供する時代になった。ビジネスは人とやり方、「何をやるか」より「誰がやるのか」「どうやるか」が必要になってくる。成功力=能力(知識・スキル)×意欲である。(着眼→収益構造→戦略)誰がどのような価値をどのように提供しどのように利益を獲得するかという全体の仕組みをたてる。農業を夢の持てる産業へしていく。人材育成事業として、やまがた6次産業としてビジネススクールを開校している。農業者とそれ以外が半々くらい(20代から60代)定員30名という山形での取組みを教えていただいた後に、3氏も交えてレクチャーしていただいた。まず農業生産法人(有)黒澤ファームを立ち上げた黒澤さんは、自衛隊に入隊したが実家の農家を継ぐために就農した。特別栽培米申請し、自分で売り込みをしてなだ万(赤坂店)と取引を開始やイチローに米を届けて食べてもらうなどした。どこに何を売るのか目的を持って、こだわりを持ったいい米をいいお店に売りたい。より高いものよりいい物を売りたい。人はプライドが高い。習いたいことは頭を下げてでもお願いに行く。このスタイルを守っているそうです。翌日黒澤さんのミニライスセンターを視察した。

④黒澤ファーム視察 (6月29日8:40~9:30)

施設の見学(ミニライスセンター)させてもらい、説明を受けた。精米からゴミの取り出し、袋詰めまでしてくれる機械です。8000万円位するそうです。

⑤山葵ハウス栽培「大富農産」視察 佐藤佳夫氏 (10:50~13:00)

山葵の栽培方法について講義いただきました。従来の栽培方法だとなかなか育たなかったが、水が漏れたところが大きく育っていた。水を満々にした栽培方式を取った。(わさび栽培の革命)この栽培方式を件で推奨してくれると思ったが、ダメだった。地元JAも興味を示してくれなかった。そんな時高木先生からブランド名をつけて売り出してみようと提案があり「雪芭蕉」という名前をつけて出荷したところ大成功、県内外の出荷が増えた。山葵は捨てる場所がないので、今後加工も考えている。山葵は清流の所でないといけないイメージがあったが、ビニールハウスで棚を組んで栽培できるので、高齢者の作業としてもできる栽培なので、村に提案できればと思いました。



遠藤氏 田んぼ



4名によるレクチャー



黒澤ファーム
ミニライスセンター



わさび栽培